

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
 タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代表校名 (連携大学名)	福島県立医科大学
事業名	急性期高齢者医療の問題点への取り組みを通じた総合診療領域の臨床研究促進と若手研究者育成
事業責任者	福島県立医科大学理事（教育・研究担当） 鈴木 弘行
事業の概要	
<p>本事業は、医師の働き方改革を推進しつつ、世界に先駆けて高齢者医療に関する社会課題の解決に向けた臨床研究と教育を実施するため、本学の総合内科・総合診療医センターにおける新たな支援体制の構築を目的とする。教育研究支援者と TA・RA を増員し、医師や研究者に対して研究計画の策定から同意説明、データ収集、統計解析、論文化に至るまで包括的な支援を提供することで、医師の臨床業務と研究活動の両立と高いパフォーマンスを実現する。TA・RA に対しては、臨床研究に関する養成・教育プログラムの提供と大学病院及び地域の医療機関での実践的な経験を積む機会を創出し、次世代の若手研究者として育成を図る。本事業の支援体制は、総合診療領域における最先端の研究の推進及び地域の医療機関や自治体を巻き込んだ地域医療の質向上に寄与すると同時に、TA・RA から若手研究者への成長の循環を通じて、将来にわたる研究力の基盤を築くものである。</p>	
<p>推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等</p>	
<p>○須賀川市でのコホート研究の実績が記載され、知見や結果を行政や地域住民に還元している。</p> <p>○世界に先駆けて高齢者医療に関する社会課題の解決に向けた臨床研究を行うため、総合診療の領域に焦点を当てており、国際レベルの臨床研究となり得る。</p> <p>○医学部学生や大学院生に対する支援措置が詳細で、TA・RA の活用方法や活動内容、年間人数目標が明確に記載されている。</p> <p>○予算の活用計画は具体的であり、教育・研究支援者の育成、体制の整備に重点が置かれている。</p> <p>○養成・育成プログラムの構築から始まり、実践的研究プロジェクトへの参加、国際学会への参加支援、評価とフィードバックの体制強化と人材養成のステップが明確であり、各ステップも本事業の目的にかなった具体的かつ実現可能性の高い内容となっている。</p> <p>○診療参加型臨床実習の充実や国際競争力の強化に向けた具体的な数値目標の設定が明確であり、的確な課題の把握と実現可能と思える対応策が記載されている。</p> <p>○診療所家庭医コース、病院総合医コースの整備、教育支援者の教員の配置等、診療参加型臨床実習の充実に向けアウトプットを設定し、教育活動に参加する学生の増加等の意欲的な目標を設定。</p> <p>○総合診療領域でリーダーシップを確立し、他大学や医療機関との連携、データ共有、研究成果の発信を計画している。</p> <p>○医師の時間外・休日労働の上限規制に基づくタスクシフティング、教育研究支援者の増員、エフォート調査の実施等、具体的な計画が詳細に記載されており、医師の研究業務効率化が期待できる。</p> <p>○メンタルヘルスチェックやワークライフバランスについても言及されている。</p> <p>○学長をトップにした明確な責任体制と、学内外の組織や教職員の連携による運営計画が詳細に記載されており、実現可能性が高い。</p> <p>○事業参加者に明確なキャリアパスを提供し、TA、RA からの内部育成で教育研究支援者の充実を図ることが計画されており、事業の継続により人材養成の促進が期待される。</p> <p>○事業継続性の観点からの臨床研究センター等との連携は評価できる。</p> <p>●国際レベルでの体制整備に関して具体的な計画がさらに示されると信頼性が増す。国際レベルの臨床研究の推進における TA・RA の具体的な役割を明確にすることが望まれる。</p>	

- 具体的な国際協力のパートナーシップ計画が求められる。
- 臨床参加型臨床実習の計画や評価指標が不明確であり、具体的な評価基準の設定が望まれる。
- 研究データ共有基盤の詳細なプロトコル策定とセキュリティ対策の強化が望まれる。
- 連携する組織や機関との具体的な役割分担や責任範囲の詳細な記載が望まれる。